

えだ通信 不動和だより 6年生「お宝発見隊」発表記念 令和7年2月22日

「6年生の頑張り」と「地域の皆様のご協力」に敬意を表し、この通信をお届けします。

(文責 江田慶久)

1. はじめに

私の実家の住所は、栃木市岩舟町小野寺3***4番地 です。自治会は「田代」ですが、近所の方々からは、「ふどわ」と呼ばれます。つまり、私は「ふどわのよっちゃん」でした。

子どもの頃は、ふどわ？ フドワ？ FUDOWA？ と意味不明でしたが、後に、「ふどわ」は正確には「ふどうわ」で、「不動和」と書き、地名であることが分かりました。つまり、私の実家は、岩舟町小野寺田代の不動和と呼ばれる場所にあることになります。実際、田代(1班)には、他に、「谷津」「川入」「膳店」などの地名があります。

このような細かな地名は、新里であれば、「西山」「会田」「湯前」「内郷」などが当たるようです。

(永島正夫氏の資料より)

では、「不動和」の意味は？ と言われると、調べはついていません。検索してみると「不動明王」とか「不動和讃」とかが出てきますが…。でも、勝手に(安直に)考えるならば、「人の和は動かない」ということになり、「いい地名かな…」と思っています。

2/22の6年生の発表会で、校長としてのコメントを求められていますが、短時間に、端的に、自分の思いを述べるのは難しいなと思い、この通信の発行を思いつきました。

そして、6年生の熱心な取組や地域の方々との交流のようすから、「人の和」「地域の和」を感じましたので、最初で最後！「不動和だより」というタイトルを思いつきました。

2. 小野寺小学校の学校課題と地域のようす

【学校】

- ・学力向上のためにも「表現力」を高めさせたい。
- ・GIGAスクール構想に乗って、岩舟町内に限らず、いろいろな学校との交流を深めたい。
- ・南小と北小の統合を機に、地域を知る学習(ふるさと学習)を進めたい。
(これには、閉校→統合→コロナ休校→本格的始動に携わった教職員の熱い思いがありました。)
- …というようなことから、

令和5年度から、学校課題に「表現力」「ふるさと学習」「発信」等をキーワードとして盛り込むことにしました。

令和5年度学校課題

自分の思いや考えを表現する力を養う指導の工夫
～ふるさとを愛し誇れる児童の育成をめざしながら～

令和6年度学校課題

自分の思いや考えを表現する力を育む指導の工夫
～ふるさとのよさを発信できる児童の育成をめざしながら～

※令和6年度栃木市の学校教育の重点(第5項目)

ふるさとを生かした学習の充実

～ふるさとへの愛着と誇りを育む「ふるさと学習」の充実～



【地域】

我が事・丸ごと事業、読み聞かせボランティア、休日ボランティア、地域学習ボランティアガイド等々益々活発化する地域活動 等々、私がここで述べるまでもありません。

3. 栃木市社会福祉協議会の事業受け入れにあたって

2. に記した現状に加え、我々教職員には、おのでらっ子に対して

- ①「学校や地域のために尽力する方々」について学び、感謝の気持ちを新たにしてほしい。
そして、「生き方の見本・参考」にしてほしい。
- ②史跡等の現地見学や「いわふねかるた」や「おのでらかるた」で遊びを通して、ふるさとについて、より一層学んでほしい。
- ③自分の家は、どの自治会の何班なのか？自治会長さんは何という方か？自治会としてはどんな活動があるのか？今日、学校に来たボランティアの方は、どこのどなたのか？等々分かっていてほしい。

というような思いがありました。

そんなときに！

栃木市社会福祉協議会から、今回の事業提案がありましたので、学校としても受け入れの決断は容易にできました。

4. 6年生の頑張り

以上のような、学校の方針に乗って… というよりも、子どもたちは、本当に純粋に、素直に、まっすぐ、この事業を受け入れ、地域の方々との時間（情報収集、意見交換）を共有していました。また、夏休みの調べ学習もがんばりました。そして、4年生の頃から得意としていたパワーポイントも活用しながら、見事に今回の発表を作り上げてくれました。お見事です！拍手!!!

5. 最後に

冒頭で述べた「不動和」の実家を離れた身としては、6年生の取組には、本当に頭が下がります。そして、大変感慨深いものがあります。

その一方で、6年生をはじめ、子どもたちには、「ふるさとを大切に思う気持ち」をもちながらも、世界で活躍する人物になってほしいという気持ちもあります。「小野寺から世界へ！」

もっと言えば、「小野寺から宇宙へ！」6年生が中学校在学中に、2名の日本人が月面に立つはずです。地球から月へ！そして、火星へ！というような壮大な計画があります（アルテミス計画）。

またその一方で、SNSの普及、DXの進化により、小野寺にいながらでも「小野寺から世界へ！」は実現できるかもしれません。

そんな未来も期待してしまいますが、それでも、おのでらっ子の心の奥底には、「ふるさと」があるはずです。帰ってくる場所は、“ここ”です！近未来では、「20歳を祝う会」等で再会したときに、「6年生のときに、お宝発見隊やったね！」「あのとき、教えてくれた〇〇さん、お元気かな？」みたいな会話ができるといいですね(^\u2022^)/

6. グローバル教育

「小野寺から世界へ！」は、おおげさな話ではなく、来年度から本格的に始まる「グローバル教育」のことです。自分を知り、個性を伸ばし、不確かな時代を自分らしく生きる。そのためにも、まずは「地域を知る」ことから始める。「小野寺小版グローバル教育」は、「ふるさと学習」から(^\u2022^)/

今回の6年生の活動を基盤に、来年度以降も、「おのでらっ子がんばれ！」

